

●文化財センター

1. 施設概要

文化財センターは郷土の歴史、民俗等に関する資料を収集し、保管し、展示して市民の利用に供し、市民及び地域社会の文化の向上に資すること及び市指定史跡である旧浴恩館の建物を保存・公開、郷土資料の保存・展示施設及び文化財保護事業の活動拠点として活用することを目的とした施設です。

施設内では展示している資料の閲覧、企画展示の開催及び文化財に係る講座・講演会の開催等を行っています。

(1) 施設一覧

文化財センターは市指定の史跡「旧浴恩館」の建物です。

表 施設一覧（平成 22 年度）

名称	住所	延床面積 (m ²)	建築年度 (年度)	備考
文化財センター	緑町3-2-37	1,010.56	昭和5	建物は市指定史跡である旧浴恩館の建物

(2) 開館日・開館時間

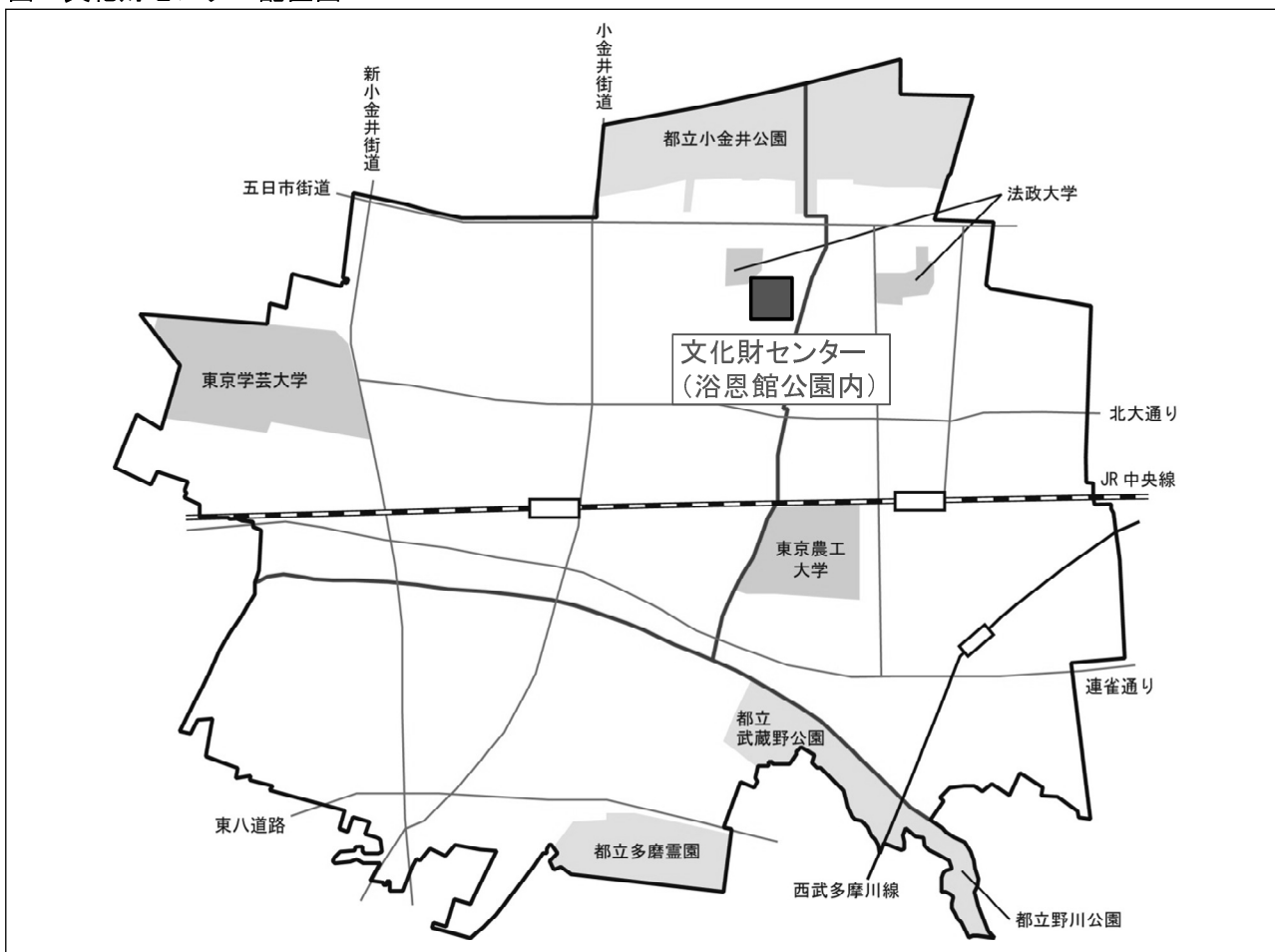
- 開館時間：午前9時～午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日、年末年始
- 年間運営日数：297日（平成22年度）

(3) 入館料

- 無料

(4) 施設配置

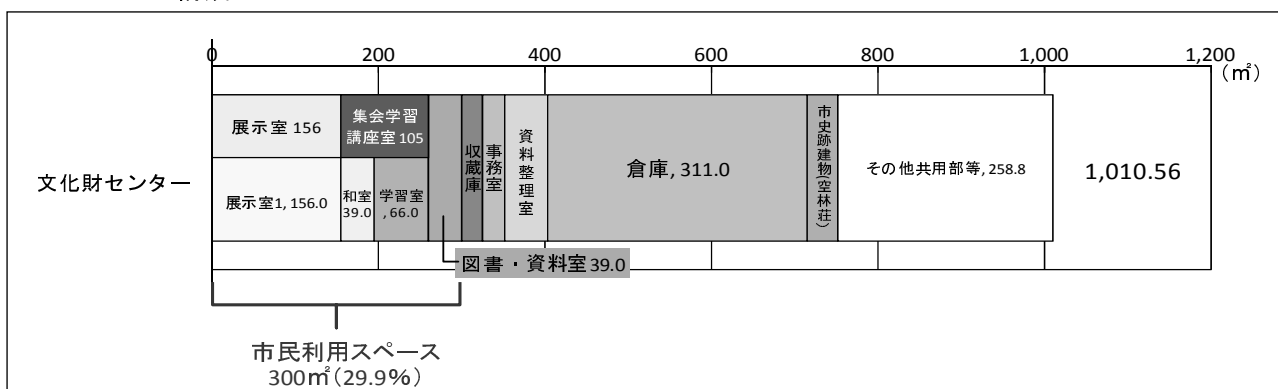
図 文化財センター配置図



(5) スペース構成

文化財センターは、1010.6㎡です。スペース構成をみると、資料の閲覧ができる展示室及び講座・講演会を行う学習室や和室の他に、調べ物ができる図書・資料室等の市民が利用できるスペースと収蔵庫、資料整理室、事務室及び倉庫といったバックヤードスペースがあります。

図 スペース構成（平成22年度）



2. 実態把握

(1) 利用状況

① 利用状況の推移

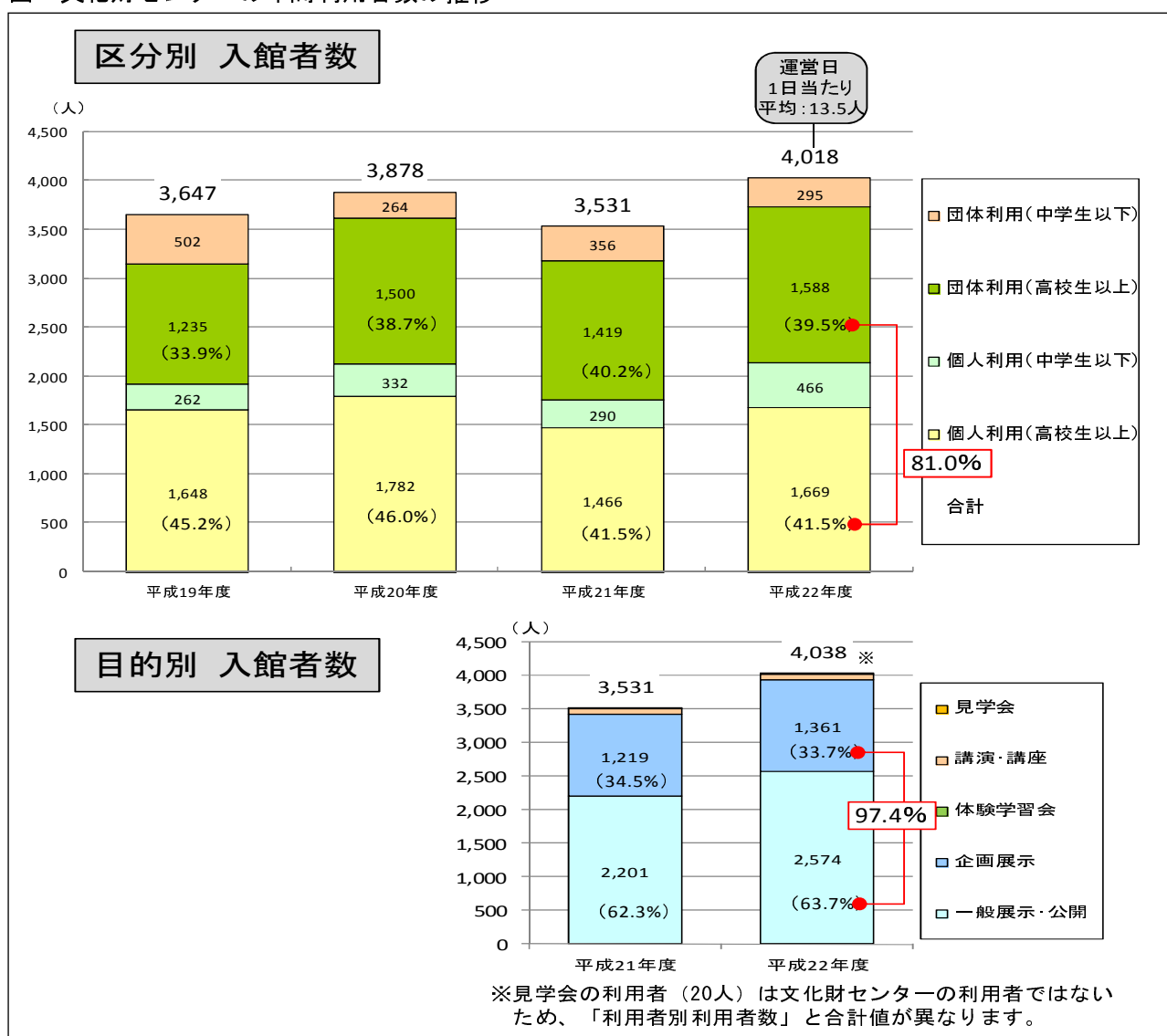
平成22年度の年間入館者数は4,018人で、運営日1日当たり平均約13.5人が利用しています。

区分別の内訳をみると、高校生以上の個人利用が1,669人と全体の約42%を占めています。また、高校生以上の団体利用が1,588人と全体の約40%を占めており、合計すると高校生以上の利用が約81%を占めています。

平成19年度からの入館者数の推移をみると、約3,500人から約4,000人までと、ほぼ同程度で推移しています。

平成22年度の目的別の内訳をみると、一般展示・公開の入館者数が2,574人と全体の約64%を占めています。また、企画展示の入館者数が1,361人と全体の約34%を占めており、展示目的の入館者が全体の約97%を占めていることがわかります。

図 文化財センターの年間利用者数の推移



(3) 運営状況

① 運営人員

文化財センターは市の直営で行っています。

運営人員は市の嘱託職員3人が従事しています。

図 運営人員（平成22年度）

		(人)
施設維持管理	一般職員	0
	嘱託職員	3
	計	3

② 運営体制

文化財センターの運営体制は、午前9時から午後5時までの運営時間中を3人の嘱託職員が週4日のローテーションで勤務しています。

曜日での運営体制の差はありません。

図 運営体制（平成22年度）

	9:00	17:00
文化財センター 運営体制 (火曜日～日曜日) 1施設当たり 約3人	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">週4日勤務で3人のローテーション</div>	

(4) コスト状況

文化財センターの年間トータルコストは、566 万円です。内訳は、施設にかかるコスト（光熱水費・建物管理委託料等）263 万円（約 47%）、事業運営にかかるコスト（物件費（嘱託職員費）・その他物件費等）303 万円（約 54%）となっています。

施設にかかるコストの内訳をみると、光熱水費が 112 万円、清掃や警備、機械保守等の建物の維持管理に関する委託料が 94 万円、修繕料が 31 万円となっています。

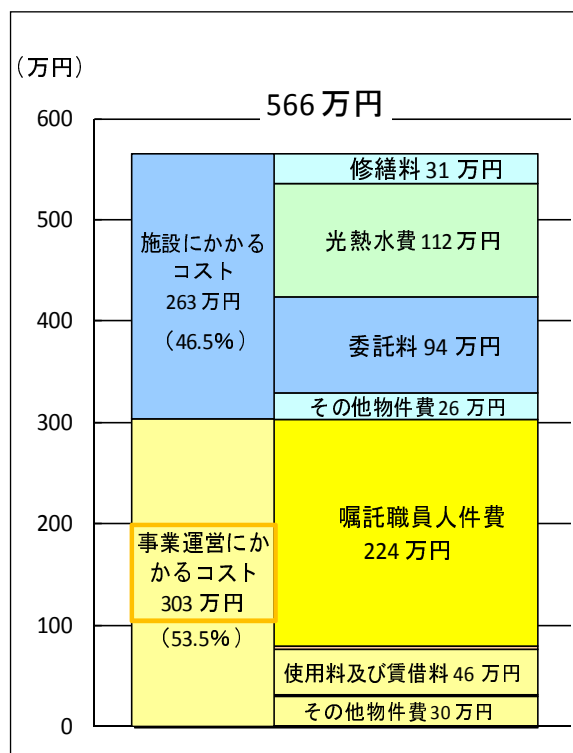
事業運営にかかるコストの内訳をみると、嘱託職員人件費が 224 万円と事業運営にかかるコストの約 74%を占めています。その他に機器の使用料及び賃借料が 46 万円、その他物件費等がかかっています。

平成 22 年度の年間入館者数とトータルコストから入館者 1 人当たりにかかるコストを機械的に算出すると、平均は 1,408 円/人となっています。

表 公共施設トータルコスト計算書（平成 22 年度）

I. 現金収支を伴うもの		(千円)
【コストの部】		文化財センター
施設にかかるコスト	修繕料	307
	改修費	0
	光熱水費	1,117
	委託料	941
	使用料及び賃借料	0
	公有財産購入費	0
	負担金補助及び交付金	0
	その他物件費	264
	施設にかかるコスト計	2,629
事業運営にかかるコスト	一般職員人件費	0
	再任用職員人件費	0
	嘱託職員人件費	2,244
	委託料	21
	使用料及び賃借料	457
	公有財産購入費	0
	車両・備品購入費	0
	負担金補助及び交付金	10
	その他物件費	296
	事業運営にかかるコスト計	3,028
現金収支を伴うコスト計		5,657
【収入の部】		
収入	分担金及び負担金(収入)	0
	手数料収入	0
	使用料収入	0
	諸収入	0
収入の合計		0
II. 現金収支を伴わないもの		
コスト	減価償却相当額	0
	不納欠損額	0
収入	収入未済額等	0
III. 総括		
コストの部合計(トータルコスト)		5,657
収支差額(ネットコスト)		5,657

図 トータルコスト（平成 22 年度）



■ 今後の課題

建物の耐震安全性・老朽化状況からみた課題

- 文化財センターは、市の指定文化財の史跡になっており、今後も市として保存に努めていきます。そのためには、木造建築物を適切に保存するための知識及び定期的なメンテナンスなどが必要です。

運営面からみた課題

- これまで、市の文化財の保存及び展示を行ってきましたが、今後、多くの市民に興味を持ってもらえる展示や講座・講演会等事業の実施等を検討し、利用向上を図り、施設の有効活用を行うことが必要です。